

小川 美沙(おがわ みさ)
平成 18 年度 3 次隊 体育 ニジェール

ニジェールの紹介

ニジェール(西アフリカに位置する)は国土の 4 分の 3 がサハラ砂漠で覆われている。多くの国民はイスラム教を信仰しており、この国の文化の中心はイスラムの教えである。日常的にも見られることは、貧しい人には分け合うと言うことである。例えば、1 つのパンを家族全員で分け合う。と言う事はもちろん、体の不自由な人には働く人々がお金や物を分け与える。と言うようにしてこの国ではみんなが同じ家族のように協力して生きている。

活動や生活について

私のニジェール生活は、毎日 3 時間の体育の授業と、放課後のバレーボール、クラブ活動です。この国は、世界でも 1 番暑い国といわれており、ここでの体育の授業はとても過酷で、授業中に生徒が熱射病で倒れてしまうこともあります。そんな中でも子供たちは、汗びっしょりに、なりながら体育の授業をします。生徒は、サッカーが大好きです。学校にはボールを買う予算が無いため、1 年の初めに州からの用具提供で、サッカーボール 1 つを渡されました。生徒の声に応えたいという思いから、サッカーをしました。すると、サッカーの授業を 5 回ただけで、ボールはパンクしてしまいました。学校のグラウンドにはたくさんの石が転がっており、グラウンドの周りにはトゲがある木や、針、ガラスのかけらがたくさん落ちているのでボールはすぐに壊れてしまいました。ほとんどの生徒は裸足で体育をします。今まで、怪我が無かった事が不思議でなりません。日本のグラウンド、学校の整備の重要性を痛感しました。

授業では、自分の指導力不足をよく感じます。そんなときは、学校長や同僚教師などに相談をし、様々な方法を教えてもらいます。生徒の中には、私を助けてくれる子もいますが、1 クラス 75 名ともなると、私の怒鳴り声が 1 時間続くこともあります。子供たちは、お調子者、内気な子、運動神経抜群な子、走る事が嫌いな子など様々ですが、ニジェールの子も、日本の子と同じように楽しいことが大好きで、違いはありません。

ニジェールの地で日々感じることは、人との信頼関係がすごく大切だと言うことです。何かしようとするといつでも誰かが手助けしてくれます。いつでも、誰かが私のことを気にかけていてくれます。そういう中で生活している私は、本当に幸せです。

幸せとは何なのか?と言うことをよく考えさせられます。確かにこの国は、日本のように豊かでモノがあふれていると言うことは有りません。だからこそ、1 人では生きていけないのです。困ったことが有れば、隣近所の人々がすぐに声をかけてくれます。いつも街中を歩いていると、前に進めないくらいの人々が挨拶をしてくれ、元気か?問題はないか?と言うことを聞いてくれます。ダイレクトに人と人がつながっていると言うことを感じます。ニジェールの人々の心は優しさと温かさでいっぱいです。NIGER は笑顔の国です。



バレーボール練習風景:選手の中には裸足でプレイする選手も多いですが、ジャンプ力のある選手は予想通りの身体能力です。砂漠でのバレーは脚が取られ、日本でのバレーよりもはるかに体力を要します。子供たちは、この環境でバレーをするため、すぐに疲れたと言う声を良く聞きます。



9月の収穫の時期を終えると、人々は家族・友達全員でこのように穀物を脱穀します。長い棒は、初めは真直ぐで、地面にたたきつけるうちに写真の様に曲がっていきます。かなりの重労働を1日中行っています。